

こころのビタミン研究所が、認定特定非営利活動法人になりました!



世界中の人々が愛されている
という実感を持てるように

栗原弘美(代表理事)



このたび、こころのビタミン研究所は、認定NPO法人として東京都より承認されました。

「すべての人がこころの相談相手を持つ」というビジョンのもと2001年より活動してきたこころのビタミンがこのような形で認められたことは、大きな喜びです。これもひとえに、皆様の多大な貢献によるものとこころから感謝申し上げます。

私の経験からも言えることですが、人は困難にあっても、よき友や相談相手がいれば何とか乗り越えていくことができます。貧しい人や病気の人、迫害を受けている人たちも、遠い異国に自分を気にかけてくれている人、応援してくれている人がいることで励まされるのです。

日本の子どもたちが自分に愛と誇りを持ち、未来に希望を抱いて生きられるためには、私たちがもっともっと愛を発信する必要があります。

世界中の人々が、愛されているという実感を持てるよう、これからも皆様と共にOSK(おせっかい)に励み、楽しく活動していきたいと思っています。

どうぞこれからも皆様のお力を貸してください。

2015年に特例認定特定非営利活動法人(旧称:仮認定特定非営利活動法人)の認定を受けて以降準備を重ねて参りましたが、2018年6月6日付で都庁より認定特定非営利活動法人(通称:認定NPO法人)の認定通知を受けました。これにより、引き続き個人・法人ともに寄付金の税額優遇措置が受けられます。ご寄付下さった皆様に、毎年1月に寄付金受領証明書をお送りしておりますので、こちらをご利用いただき、確定申告を行うことで税金の控除を受けられます。

また、新たに相続人が相続財産を寄付した場合も寄付額が相続税課税対象から免除される等の優遇が受けられます。詳細はお住まいの税務署にお問い合わせください。

ESP学園の相談員に新しいメンバーが加わりました

こころのビタミン研究所では、国内の相談事業として2006年から都内の専門学校ESP学園に相談員を派遣し、「なんでも相談室」として学生に対するカウンセリングを定期的に行っています。

長年にわたり活動してきた湯田佐恵子相談員に代わり、神山由美相談員と横井恵相談員が加わりました。10年以上担当している徳富隆子相談員、広田正子相談員に加え、現在4名の相談員が活動しています。

学生たちが相談室の存在を知って気軽に利用できるよう、学園スタッフの方が工夫を凝らし、最近では相談件数も増加しています。

「学生さんたちはすれ違う時も気軽に挨拶してくれます。学園は活気があり、逆に元気をもらっています」と相談員。学生たちの多様な悩みに寄り添い、これから人生を拓いていく若者たちを応援し続けていきます。

喪失回復プログラム・被災者支援プログラムにお知り合いをご紹介ください

身近な方を亡くされた方、また、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨で被害にあわれた方やボランティア活動をされた方のために、「喪失回復プログラム」「被災者支援プログラム」として、会員非会員を問わず、こころの癒しを目的とするビジョン心理学セミナーへご招待しています。被災者支援プログラムでは被災の程度等に応じて半額または無料でご参加いただけます。詳細はこころのビタミン研究所のホームページに掲載している他、事務局までどうぞお気軽にお問い合わせ下さい。ご友人やお知り合いで対象になる方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。(担当:磯田) <<対象セミナー>> ※下記以外にも開催しています。お問い合わせください。

●被災者支援プログラム

仙台 日時:2018年10月21日(日) 10:00~18:00 会場:ベルエア会館
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町1丁目4-8 JR仙台駅徒歩12分
熊本 日時:2018年10月21日(日) 10:00~18:00
会場:TKPガーデンシティ ネストホテル熊本
〒860-0804 熊本県熊本市中央区幸島町4-39 熊本市電幸島駅徒歩5分

●喪失回復プログラム

随時ご案内しております。お気軽にお問い合わせください。

こころのビタミン研究所の活動にご支援よろしくお願いします!

【振込先】 郵便局:ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271
銀行口座:三井住友銀行 三田通支店 普通7852939
【口座名(郵便局・銀行共)】 特定非営利活動法人こころのビタミン研究所



〒108-0073
東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL:03-5765-1956 FAX:03-5765-1961
E-mail:info@cocoro-v.org
URL:http://www.cocoro-v.org
ブログ:http://ameblo.jp/cocoro-v
Facebook:認定NPO法人こころのビタミン研究所

ビタミンニュース NO.23 2018年7月号
発行日/2018年7月31日 発行/認定NPO法人こころのビタミン研究所

■平成29年度 収支報告 (平成29年4月1日~平成30年3月31日 単位:円)

収入の部		支出の部	
会費収入	685,000	勉強会事業	89,097
勉強会事業	34,000	相談事業	218,960
相談事業	223,748		
海外支援事業		海外支援事業	
バングラデシュ	4,000	バングラデシュ	2,808,600
ハイチ	2,000	ハイチ	6,153,106
東日本大震災支援	500	東日本大震災支援	44,400
熊本地震支援	12,000	熊本地震支援	690,720
子ども支援	147,555	子ども支援	2,700,000
寄付金	10,091,303	あしなが育英会へ寄付	180,000
		喪失回復プログラム	223,560
		会報及び出版物発行	168,149
受取利息	193	管理費	3,128,670
当期収入	11,200,299	当期支出	16,405,262
前期繰越金	22,023,830	次期繰越金	16,818,867
合計	33,224,129	合計	33,224,129

平成29年度通常総会が6月1日に開催され、平成29年度決算報告及び平成30年度事業計画は満場一致で承認されました。

Vitamin News

ビタミンニュース NO.23 2018年7月号

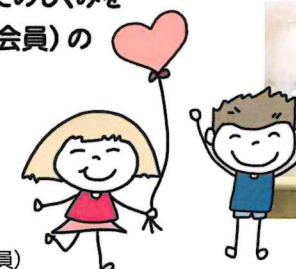


4月14日「ハートフルファミリーの集い」開催!!

日頃から応援して下さる皆さまに感謝の気持ちを込めて、
ビジョンセンター田町にて「ハートフルファミリーの集い」を開催しました。
「子どもたちは私たちの未来Part2」と題し、子どもにからだのしくみを教える活動をしている世良喜子さん(ハートフルファミリー会員)の講演から、自分たちの体や命の大切さを学びました。

からだのしくみを教え自分の命や体の大切さを伝えたい

世良喜子(ハートフルファミリー会員)



世良喜子さん(国際医療福祉大学 教授)

私は、子どもにからだのしくみを教える活動に取り組んでいます。昨年、この活動の母体である聖路加からだ教育研究会で「5歳児に自分の体を知ってほしい、紙芝居で学びの場を届けよう」というクラウド・ファンディングを行いました。そのことをお話したところ、こころのビタミン研究所から30万円のご寄付をいただき、絵本を増刷することができました。心から感謝申し上げます。

この活動は、2003年に「からだの知識を全ての人に」を合言葉にはじまりました。日本では、体の知識は小学校で学習しますが、養護教諭の聞き取りで、小学生は体のしくみのお話をしても集団になると無関心を装う、気持ち悪いと捉えることがあることがわかりました。そこで素直に体に関心があり、理解力が育ってきた5-6歳児を対象に行ってきました。

私は、大学で小児看護学実習の一環として、保育園で看護学生

が企画・実施する「体のしくみを教える健康教育」に関わってきました。子どもたちは、目を輝かせて、学生のお話を聞いています。そして体のしくみがわかると、今まで友達に乱暴をしていた子が、硬い骨(頭蓋骨)の中には軟らかい脳が入っていて、強い衝撃を受けると壊れてしまうことを理解して、叩かなくなったり、また親や先生に言われたからではなく、自らが理由を納得して健康行動をとる子どもの姿に感動させられてきました。

今年、実習だけでなくこの活動を行ってほしいという学生によるサークルが立ち上がりました。また現在この活動を地域に定着させていく事業に取り組んでいます。

これからも子どもたちに体の素晴らしさを伝え、自分の命や体の大切さを伝えていきたいと思います。



夫婦で楽しく、自分たちが出来ることを

横井良隆・恵(ハートフルファミリー会員)



横井良隆さん・恵さん

今回、夫婦でハートフルファミリーの集いの司会をさせていただきました。夫婦で前に立って何かする機会はなかなかないので、緊張しながらも楽しく貢献させていただきました。

こころのビタミンでは多くの方がそれぞれ想いを抱いて関わっている姿にいつも感動しています。今回はハイチの会セスラの方や、長年貢献されているハートフルファミリー会員の石森勢津子さんのお話、世良喜子さんの講演内容にもとても共感し、司会でいながら一番前のめりになって楽しく参加させて頂きました。

また、こころのビタミンでは子どもの貧困問題についても取り組んでおり、「子ども食堂」をサポートしているなど、私たち自身も子どもの笑顔が世界の笑顔、明るい未来につながっていると信じているので、これからも子どもに関わる支援や自分たちが出来ることを夫婦で楽しく、どんどんしていきたいと思っています。

会員も活動を始めています

NPO法人からだフシギが主催する、子どもにからだの知識や大切さを伝える担い手を育てる「からだ先生」研修会が1月6日聖路加国際大学で開催され、ハートフルファミリー会員から8名が参加しました。

研修会に参加した細野まみ恵さんは、6月10日都内の児童館で「からだのお話し会」に「からだ先生」として参加し、保育園児や親子にからだの知識を楽しく伝えました。

また横井良隆さん・恵さんは、7月28日さいたま市の「てらこや新都心」でこの研修会で学んだことを生かしたオリジナルの「からだ講座」を開催する予定になっています。

子どもたちに
お話しする
細野まみ恵さん





パートナーシップをありがとうございます

ハイチの会セスラ 代表 高岡美智子

ハイチ支援の繋がりで、貴重なご協力をいただいているハイチの会セスラです。

みなさまの「ハートフルファミリーの集い」に参加させていただき、幅広い世代が集まっていること、とても温かい雰囲気なのに感銘を受けました。

私たちの会は、設立15年になりますが、幼稚園・小学校という初等教育を担うセスラ校を支援して参りました。親が授業料を払えず、どこからも支援が得られないので、いつ学校が閉鎖になるか分からない、という状況を見て、とにかくお金を送ってサポートしよう、と始まった支援活動でした。2010年のハイチ地震を経て、農村地区に学校用地を購入し、最低限ですが学校施設が整いました。でも、教室はまだ仮設の掘っ立て小屋で、学校建設が大きな課題です。

地理上の距離、言語の壁、そして文化・習慣・考え方の違いなどいろいろな困難に出会いますが、何かにつけてハイチを思い、ハイチは面白い! と思っている私たちです。

こころのビタミン研究所とのパートナーシップに期待しております。よろしくお願いします。



6月19日の卒業式



マリクレール校長と生徒たち

被災地障害者センターくまもとを訪問しました

被災地障害者センターくまもとの活動拠点である「障害者がともに暮らせる地域創生館」(益城町)を、5月14日鷹野えみ子副代表理事が訪問し、スタッフの鈴木さんにお話を伺いました。

2016年4月の熊本地震により障害を持つようになった人は約1500人、そのうち障害として認定されたのは24人。障害を持つ方が避難所に行くこと、そこで生活することはたやすいことなく、避難所内ではいじめなどの問題もあって相談に乗っています。町内には自力での住宅再建が困難な人のための災害公営住宅(復興住宅)が310棟ありますが、バリアフリーの住宅は1割程で、障害を持つ方々には利用しにくく、一部崩れた自宅に戻って住むケースもあります。

住居探しや引っ越し支援、避難所生活に関する相談など、障害を持つ方が安心できる住環境を確保することが重要な課題です。

物資の提供から壊れたブロック塀や被災ゴミの運搬、修理費用や助成金の申請など、被災した障害者の方々が地域で生活していく為のあらゆる支援をしてきたセンターですが、現在は、片付けや傾聴などに女性の力が必要とお話します。

震災から2年が経ち、今何が必要とされているのか、私たちが出来ることは何かを考え、支援していきたいと、鷹野副代表理事は語っています。



スタッフの皆さんと
鷹野副代表理事(前列中央)



ハイチから



センチルさんの来日を 予定しています



センチルさん
(IAHイニシアティブ・アゲ
インスト・ハンガー代表)

8月に都内で開催されるビジョン心理学インターナショナルトレーニングに、今年もハイチからセンチルさんをお招きする準備を進めています。

センチルさんはハイチの医療保健センターの責任者で、今年

新たなビジョンとして、若者のための職業訓練校の建設を開始しています。インターナショナルトレーニングの中では、恒例のチャリティーオークションも予定しています。どうぞお楽しみに!

職業訓練校の建設を開始します

2019年夏の完成を目指して医療保健センターの敷地内に建設を開始します。生徒は当初80名の予定で、専門的技術(配管工、電気工事、コンピューター、左官工事など)を各学科6か月のコースで教えます。現地のセンチルさんからのメッセージをご紹介します。



愛は世界をつくる!

バングラデシュでは、飢餓と貧困を終わらせようとしています。私たちは、戦いではなく愛でメンバーを動機付けようとしています。愛によってのみ、飢えと貧困から解放され、喜びと幸福との調和で満ち溢れた、より良い未来を築くことができます。みなさんのサポートに感謝申し上げます!

私とアンジュは共通のビジョンを持ちパートナーシップを組んで、女性と子ども達を力づけ、村を発展させました。カリガンジで運営する学校には、2018年現在、幼稚園児から5年生まで生徒212名(男子125名女子87名)、教師9名がいます。学生はベンガ

学校の様子



親愛なる日本の皆さんへ ～海外の友人たちからのメッセージ

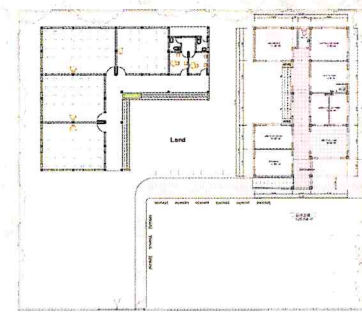
ハイチの若者が自分の国に誇りを持てるように

センチル・ラゲル

この新しいプロジェクト「青少年の職業訓練校」は、私たちの医療保健センターがある地域にとって大変必要なものです。この地域の青少年には、専門的職業訓練を受ける機会がなく、未来への希望がありません。そのため、多くの人がより良い暮らしを求めて、ハイチを去ってチリやブラジルに渡り、ほとんどの人が自国にもどることはありません。

私たちIAHは、職業訓練校で青少年が専門的技術を身に付け、この地域で仕事を獲得暮らし、自分の国や地域に自信と誇りを持てるように、新たな選択肢を提供したいと考え、6月末には基礎工事を開始できる運びとなりました。

この地域の人々は、新しい学校を財政的にサポートしてくださる皆さんに心からの愛を送っています。皆さんの支援は、若者に生計を立てるためのトレーニングを提供し、ハイチを出国せざるを得ない青少年を助けてくれているのです。



職業訓練校平面図

医療保健センターの活動報告

2018年1月から6月の間、3月は200人以上の子ども達に流行病のジフテリア(田舎では60名の子ども達が亡くなりました)の予防接種をしました。保健省はこの発生を止める為に対策期間を設け、私たちも厚生労働省の支援のもと、期間を2週間延長して大量のワクチンを接種しました。5月は、虫や蚊が媒介する象皮病への大規模なキャンペーンを地域全体で行いました。またこの期間内に、相談を受けた栄養失調の子供たち全員に、粉ミルク、トウモロコシ粉、ビタミンAのミルク等の栄養食を提供し、エイズや性感染症予防の為にコンドームの無料配布を行いました。

バングラデシュから



アタウル・ラーマン・ミトン (HFWバングラデシュ事務局長)、
アンジュマン・アクタ (HFWバングラデシュスタッフ)



生徒たち

ル語、英語、数学、環境、美術を学び、すべての生徒に栄養ある学校給食を提供しています。学校経営はとても上手いっています。

カリガンジでは「飢餓を終わらせる女性達」(Women Ending Hunger)として、23のグループから527人の女性が活動しています。彼女達の成功は何度もテレビで放映され、今では多くの人々の手本になっています。彼女たちの多くは、2003年からのバングラデシュでのセミナーで栗原弘美先生に触発されています。彼女達の殆どはこころのビタミン研究所の寄付で創られた「笑顔の女性賞」を受賞し、賞金BDT5000(約7000円)を元手に小規模ビジネスを始め、人生に変化をもたらしました。

カリガンジの有機農業センターで訓練された、女性リーダー達約600人がミミズ堆肥を生産し、安全な食糧を生産しています。私たちはこの管理委員会を立ち上げました。このセンターは、農業技術の向上やミーティングで農民を力づけることに役立っています。

2018年6月末までに、コンピュータートレーニングセンター(6ヶ月コース)の160名の学生が試験を受け、若者が仕事を見つけ自営業になるのに役立つ、バングラデシュ政府からの証明書を取得します。センターマネージャーでトレーナーのBipas氏は「私たちは大きな家族です。私たちは一緒にいるし、これからもずっとそうです。財政的自立への支援に感謝します。私たちはみなさんの愛とインスピレーションで進み続けます。さらに多くの学生をサポートするために大きなセンターに成長させたいです」と心から感謝を述べています。

愛は世界を作る! ありがとうございます。愛しています。



女性たちの会議で話すミトン

学校の催しでの
伝統的なケーキ